

Harmonica

Concert

創立50周年記念
第77回定期演奏会

明治大学ハーモニカ・ソサエティー
1969年6月7日(土) P. M. 6:00

神田共立講堂



部長
北島 忠男



顧問
川口 章吾



顧問
林 久吉

初夏のよそおいのなかに、今年も、明治大学ハーモニカ・ソサエティーは春の定期演奏会を開催するのはこびとなりました。本日の演奏会は77回目のそれであると同時に、ソサエティーの創立50周年を記念する演奏会でもあります。

大正8年(1919)に創立されたソサエティーは、第2次大戦中やむをえず活動を一時休止したこともありましたが、戦後いち早く復活して、ここに誕生以来半世紀をかぞえることになりました。本日の演奏会では在校生と卒業生とによる合同演奏会が持たれますが、壇上にならんだ演奏者たちの姿のなかから、私たちは半世紀にわたるソサエティーの歩ゆみを、はだで感じとることができる気がいたします。

さて、ソサエティーは、この3月に12名の卒業生を世に送り、また、4月には13名の新入生を迎えました。こうした繰返しのないなかに伝統が受けつがれ、育てられ、創られて、終わることのないソサエティーの歩みが続けられるわけです。本日の演奏会にご来場の皆様におかれましても、こうしたソサエティーの歩みを暖かく見守って下さいますよう心からお願い申し上げます。

最後に、本日の演奏会の開催に際しまして、卒業生諸兄の物心両面にわたったご尽力を得ましたことを、心から感謝する次第でございます。

わが明大ハーモニカ・ソサエティーも、ここに華やかな第77回の演奏会を開くに至ったことは、まことにご同慶の至りであります。

今回も第一部にタイゲの行進曲「旧友」、ヨハンシュトラウスの「青きドナウ」、モーツァルトの「トルコ行進曲」、の外に珍らしく船木氏の「ヴォルガ」などがあり、第二部以下は例によって軽快なステージの数々が組まれています。

本年は、50周年という記念演奏会ではありますが、その間幾多の曲折があつて今日におよんでいることでもあります。

第1回目の発表演奏会は、横浜の記念会館と、東京神田のYMCAのホールとで日を追って行なわれたのであります。当時の創立者は、佐藤時太郎、新田義郎、服部茂、鈴木重吉、佐野秀吉、大塚潤一郎などの諸氏でありましたが、今はそのなつかしい人々の多くは他界されて、わずかに鈴木重吉、大塚潤一郎両氏のみ健在であります。なおソサエティーのメンバーの中から、中村君雄、守田淑、井実敬一、上原秋男などと諸君のごときハーモニカ手も数々出て、各々異なった持ち味を示しておりました。

今後わがソサエティーから、どのような新人が生れ出るのでしょうか、実にたのしいものであります。

本日ここに明治大学ハーモニカ・ソサエティー創立50周年を記念するOB・現役合同大演奏会を開催のご通知に接し、一言祝詞を申し述べることのできますことを光栄といたします。

明治大学に最初の音楽団体として、大正7年産声をあげ、爾来50年という長い年月を経て今日まで隆盛を続けているのがわが明治大学ハーモニカ・ソサエティーであつて、この50年という長い年月の輝かしいソサエティーの歴史をつくり上げて下さった先輩各位の労を多として深甚の敬意を表し、その功績をたたえたいと存じます。私は初代部長大田黒敏男教授、二代目部長佐伯叔郎教授に次いで三代目部長に就任したのは昭和8年4月のことであつて、停年で退職した41年3月まで満33年間その地位にたった者で、次代を背負う適材として、新進の北島忠男教授に部長を引継いでいただいたことは誠にソサエティー発展のため嘉すべきことであると確信いたします。

明治大学ハーモニカ・ソサエティーは、年々歳々多く有望な部員を社会に送り出し、その中には実業界に、教育界に、官界に、音楽界に素晴らしい名声をはせておられる方もあるし、それに近づきつつある方も多々あるのでありますが、功成らんとする中途にして倒れた方もなしとしないのでありまして、ソサエティー関係者の1人としての私も、この機会において、これら先輩の方々に対しては、心よりソサエティーを今日あらしめたその功績に対し心より感謝申し上げるものであります。最後に本日のご盛會をお祝い申し上げて擲筆いたします。

中学時代洋楽は私の憧れの的であつた。当時はしかしながらテレビは勿論ラジオもなく音楽を鑑賞するには、外国のレコードまたは日比谷公園旧音楽堂での陸海軍々楽隊の日曜コンサートを聴く位のものであつた。中学2年(大正6年)ほうぼうがし回った末やっと単音のハーモニカを手に入れ先生もなく我流ではじめた。その後、鷺印レコード会社から川口章吾先生のハーモニカ独奏曲カルメン、越後獅子、スパニッシュヨーク等発売されたが、先生の楽器はドイツホーナー製の20穴らしく市販品がなく国産はやっと16穴が出来た頃でホーナー製をさがすのに苦労した。当時一般大衆楽器はようやくイタリー製のマンドリンが輸入された頃で、ギター等はなく皆さんの想像できない楽器貧困時代であつた。大正9年春、神田美土代町YMCAホールで初めて川口先生指導のもとにソサエティーの第1回発表演奏会は干天に慈雨のごとく音楽に憧れる大衆が殺到し立錫の余地もない盛況で私も当時の金で3円の入場券を手に入れやっとはいったが、これが明大へ入学する決心をさせた。この日本最初のハーモニカ・ソサエティーの演奏会以来、大学、中学また民間に続々とハーモニカバンドが誕生し、ハーモニカ音楽の隆盛とともに音楽揺籃時代に音感による基礎を築いたことはわがソサエティーの誇りとするに足るものである。私は創立者佐藤時太郎、中村君雄両先輩の後の指揮をついだのであるが両氏は戦前すでに亡く、今日老兵の私が狩り出された次第である。

日本ハーモニカクラブ理事・全日本アコーディオン連盟副会長・明治大学ハーモニカソサエティーOB代表
大塚潤一郎

若葉青葉が初夏の日ざしに照りはえる今宵、ここ神田共立講堂におきまして創立50周年記念の演奏会を迎えることは私ども部員一同大きな喜びとするところであります。4月より新入生を迎え現在50余名で連日練習に励んでまいりました。未熟な演奏ではございますが、日頃の練習の成果を充分に発揮しました私どもの演奏が皆様の心にとどまることが出来ますならば幸いですと思っております。

最後にこの演奏会のために多大なご援助または賛助出演いただきました諸先輩の皆様、指揮者の川口章吾先生、ゲストのアイ・ジョージさん、会場整理にあたって下さいました明治大学実務決算部の方々、ご多忙にもかかわらずご来場下さいました皆様にお礼申し上げます。

明治大学ハーモニカ・ソサエティー部員一同

Program

Section 1 古典音楽

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1. 美しく青きドナウ …………… ヨハン・シュトラウス作曲 | 石川 登 編曲
大塚潤一郎 指揮 |
| 2. 行進曲「旧友」 …………… タイケ作曲 | 石川 登 編曲
川口 章吾 指揮 |
| 3. トルコ行進曲 …………… モーツァルト作曲 | 石川 登 編曲
小笠原晴海 指揮 |
| 4. 「ヴォルガ」 …………… 船木謙一作曲 | 鶴田 佳男 指揮 |

賛助出演 明治大学グリークラブ

「ヴォルガ」 作・編曲 船木 謙一

この作品は、帝政ロシア支配下におけるロシア民謡特有の苦しさ、哀しさを秘めながらも、それでいてスラブ民族の繊細な感情を思わせる甘美なメロディーを繰り返しながら、ロシアの果てしなく広い平原を思わすダイナミックな男声合唱の高まりと、暗く冷たい夜のしじまに輝く星のような荘重さが響いてくるような起伏の激しいシンフォニックな展開を見せる叙情性豊かな作品で、ロシア国民楽派の作曲家達を彷彿させるような手法によって、次々に登場してくるわがハーモニカ・ソサエティーの演奏は、「ヴォルガの舟歌」の「主題」による交響詩ともいえるほどの力作です。

指揮者紹介

大塚潤一郎 松沢ハーモニカ専門店主松沢正治氏の推薦により当ソサエティーにスカウトされ、ソサエティーの創始者である佐藤時太郎氏をして百万の援軍を得たと喜ばれた同氏は豪華絢爛端正な独奏者にして、ウイリアムテル、天国と地獄、椿姫などの独奏は正に天下一品他に類を見ずわが国代表的な独奏者にして偉大なる指揮者である。

小笠原晴海 (昭和16年商学部卒業) 当クラブ内に戦前派、戦後派の分裂が起った混乱の時代の中、2年間指揮者兼幹事長をつとめ岐路に立たされたハーモニカ・ソサエティーを維持してきた。現在は秋田県能代商業高校の教諭であるが、そこにおいてもまたハーモニカ・ソサエティーを設立し、当クラブとの交流をはかり、両ソサエティーにとって良き先輩であり指導者である。

川口 章吾 (日本ハーモニカ協会会長) 明治35年よりハーモニカを吹き、日本各地を一管のハーモニカを携えて演奏旅行をしレコード吹込み、ラジオ放送、楽譜出版、川口ハーモニカ合奏団を作り、世界で最初の複音ハーモニカオクターブ奏法、ベース挿入奏法を考案した世界ハーモニカ界の元老にして、わが明治大学ハーモニカ・ソサエティーの育ての親である。

豪華さと驚異的な低価格

コロナ MARK II マークツー

1600c.c・85馬力・5人乗り

県下最大の自動車販売会社

横浜トヨペット

本社 横浜市磯子区東町14 TEL 751-1211(大代)



Section II 映画音楽特集

司会 山下 敬一

1. ウェスト・サイド・ストーリーより
2. ロシアより愛をこめて
3. 太陽は一人ぼっち
4. エデンの東

etc.

編曲者紹介

佐伯 亮 昭和35年明治大学法学部卒業。在学中は明治大学マンドリンクラブに在籍、卒業後古賀政男先生に師事し、若干23才でコロムビア専属作曲家として迎えられ、昭和37年、西条八十作詞・古賀政男作曲「恋の曼珠沙華」で日頃の精神が実り、1962年度日本レコード大賞編曲賞の栄に輝いた。また日本の数少ないバラライカ奏者としても有名で、テレビにステージに活躍している。

甲斐 靖文 昭和37年明治大学法学部卒業。大分県別府市出身。在学中は明治大学マンドリンクラブに在籍、古賀政男、佐伯亮両先生に師事し、両先生の手助けをするかわら、自分の作品もレコードに吹き込み、将来の飛躍を大いに期待されている。在学中はマンドラを専門にしていたが、その他マンドリン、ギター、バラライカ、ピアノとなんでもこなすみかけによらずせん細なところがある。

船木 謙一 昭和38年明治大学文学部卒業。秋田県男鹿市出身。在学中は明治大学マンドリンクラブのコンサートマスターとして活躍。現在では銀座の“バラライカ”でバラライカを奏る一方、作・編曲も勉強中である。去る4月にはビクターレコードより青春コンビ“セツちゃんとはく”（ビクターSV-828）を発売、5月には日本作詩大賞受賞。また7月には藤ユキ唄の「プリンセスの恋」を発売する。

坂田 隆司 昭和42年明治大学文学部史学地理学科卒業。在学中は明治大学ハーモニカ・ソサエティーに在籍し、指揮者として活躍。また在学中からその才能をかわれて「春の声」「新世界」などを編曲し、その音楽的センスはすばらしいものであり、卒業後も社会人として勤めるかわら、編曲に余念がない。

溢れる名曲 落ち着いた優雅な雰囲気



珈琲
名曲

五城

(旧名 らんぶる)

- ◆年中無休
- ◆営業時間 A.M. 8:30~P.M.10:30
- ◆サービス・タイム A.M.8:30~P.M.1:00
- ◆神田神保町日活裏通り TEL(293)4851~2



